

## 外郭団体評価調書【公益法人用】

基本情報

平成21年7月1日現在

団体名	財団法人會津八一記念館				
所在地	新潟市中央区西船見町5932				
電話番号	025-222-7612	代表者職氏名 所属・肩書	理事長 高橋 道映 〔新潟日報社 代表取締役社長 〕		
設立年月日	昭和47年5月8日	所管課	文化政策課		
ホームページ	http://aizuyaichi.nuis.jp/	E-mail	aizu-81@athena.ocn.ne.jp		
基本財産 (資本金)	198,400 千円	その他 出資者	氏名・名称	出資等額	出資等比率
市出資等額	100,000 千円		株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
市出資等割合	50.4 %		株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
			株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
			株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
		その他	88,800 千円	44.8 %	
設立目的	會津八一の遺墨、遺品、著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文芸、芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育、学術の交流に資すること				
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覽の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する				

組織等の状況

役職員数

(単位:人)

	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度
役員数	9	9	9	9
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	9	9	9	9
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	6	6	6	6
その他				
職員数	4	4	4	4
常勤	2	2	2	2
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	2	2	2
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	2	2
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	2	2

職員の状況及び年齢構成(役員兼任の職員を含む)

(単位:人)

		合計	市派遣・兼任	市職員OB	プロパー	他団体派遣・兼任	臨時・嘱託等
職 況 の	管理職	0					
	一般職	2			2		
	合計	2	0	0	2	0	0
年 齢 構 成	20代以下	1			1		
	30代	1			1		
	40代	0					
	50代	0					
	60代以上	0					
	合計	2	0	0	2	0	0

給与等の概要

給与等の状況	常勤役員の平均年収 千円	常勤プロパー職員給与			
		初任給		平均年収	平均年齢
		大卒 172,200 高卒 140,100	円	3,805千円	31.6歳
常勤プロパー職員の 給与体系	現在の給与体系		見直しの予定		
		団体独自の給与体系		有	予定時期 年 月
	✓	市の給与体系を準用		無	
		その他〔 〕		その他〔 〕	

経理の適正化の状況

専門家による監事・監査役就任			専門家による会計指導		
有	就任時期 年度から		✓	有	依頼時期 18年度から
	依頼先職種〔 〕				依頼先職種〔 税理士 〕
✓	無			無	

事業の概要

主要事業の概要

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
會津八一記念館管理運営事業		公益	受託	會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、および展示(業務仕様書より)			
実施状況	事業規模	収支区分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度予算
		費用		30,168千円	28,931千円	30,313千円	33,456千円
	活動指標・成果指標		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度目標
	年間入館者数		人	8,338	8,875	7,111	7,900
入館料収入(特別展も含む)		円	3,293,680	3,269,620	2,369,480	3,000,000	

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
特別展自主事業		公益	自主	特別展は、毎年度受託金110万円に加え、自主財源を補填し、會津八一の芸術的世界あるいは学者としての世界を多角的にみせるため他館や個人の収蔵品などを借用し、映像的立体的に展示し図録も作成している。			
実施状況	事業規模	収支区分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度予算
				6,477千円	5,563千円	5,235千円	4,900千円
	活動指標・成果指標		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度目標
	入館者数		人	2,844	2,637	2,774	3,000

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
文芸講演会事業		公益	自主	館長はじめ會津八一の学芸的世界の研究者らによる講演, 芸術家による公演で, より一層, 記念館の展示の理解を助け, 親しみを持ってもらいリピーターを拡大する。18年度は没後50年記念で仲代達矢氏と市長・館長の鼎談を実施。			
実施状況	事業規模	収支区分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度予算
				3,315 千円	561 千円	619 千円	800 千円
	活動指標・成果指標		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度目標
	開催数	回	6	7	11	12	
聴講者数	人	1,872	1,537	1,211	1,000		

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
普及活動事業		公益	自主	會津八一の知名度の復興のため, 没後50年を記念し全国を対象にした懸賞付き学術論文コンテストを3年ごとに実施。19年度からは「會津八一の歌を映す」写真コンテストを毎年実施へ。			
実施状況	事業規模	収支区分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度予算
				1,330 千円	4,030 千円	2,289 千円	3,750 千円
	活動指標・成果指標		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度目標
	学術懸賞論文の応募点数	点	5				10
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数	点		68	57		100	

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
学習講座事業		公益	自主	外部講師による講座 = 會津八一の歌を読む会, 會津八一・吉野秀雄往復書簡講読会, 會津八一と斎藤茂吉茂吉書簡を読む講読会 学芸員らによる出前事業			
実施状況	事業規模	収支区分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度予算
				0 千円	20 千円	0 千円	0 千円
	活動指標・成果指標		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度目標
	外部講師による講座受講者数	人	38	65	52	200	
学芸員らによる出前授業受講者数	人		130	125	300		

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
販売事業		公益	自主	會津八一の作品の複製, 歌集, 研究書籍のほかTシャツ, レターセットなど関連グッズの販売により, 愛好者や旅行者の思い出の品にしてリピーターの拡大を図る。これに伴い, 記念館の自主活動の財源確保をする。			
実施状況	事業規模	収支区分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度予算
		費用		4,145 千円	2,293 千円	2,048 千円	2,000 千円
	活動指標・成果指標		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度目標
年間販売額	円	4,245	3,816	3,205	3,200		

その他各種指標

指標の内容	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度 目標・予定	中長期目標	
						目標値	年度

財務の状況(平成16年改正会計基準)

正味財産増減計算書

(単位:千円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
一般正味財産増減の部	経常収益	47,648	41,496	43,929
	基本財産運用益	2,538	2,578	3,168
	受取会費	0	0	
	事業収益	41,260	35,773	37,364
	自主事業収益	11,092	6,842	7,051
	受託事業収益	30,168	28,931	30,313
	受取補助金等・負担金	300	300	300
	その他収益	3,550	2,845	3,097
	経常費用	51,764	43,020	43,268
	事業費	45,541	40,358	40,468
	自主事業費	15,373	11,427	10,074
	受託事業費	30,168	28,931	30,394
	管理費	6,223	2,662	2,800
	その他経常費用			
	当期経常増減額	4,116	1,524	661
	経常外収益	0	0	243
経常外費用	542	0		
当期経常外増減額	542	0	243	
当期一般正味財産増減額	4,658	1,524	904	
一般正味財産期首残高	36,520	31,862	30,339	
一般正味財産期末残高	31,862	30,338	31,243	
指定増減正味の部財産	受取補助金等・負担金			
	その他	2,538	2,578	3,168
	基本財産評価損益	65	65	120
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	2,538	2,578	3,168
	当期指定正味財産増減額	65	65	120
	指定正味財産期首残高	198,400	198,465	198,530
指定正味財産期末残高	198,465	198,530	198,410	
正味財産期末残高	230,327	228,868	229,653	
参考	当期収入	48,206	41,492	43,885
	前期繰越収支差額	12,203	7,535	4,916
	収入合計	60,409	49,027	48,801
	当期支出	52,874	44,111	42,624
	うち収益事業支出			
	うち公益事業支出	45,541	40,358	40,136
	次期繰越収支差額	7,535	4,916	6,177
	人件費	14,263	14,620	14,784
	うち役員人件費	0	0	0

貸借対照表

(単位:千円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
資産の部	流動資産	14,052	11,648	13,998
	現金預金	8,829	6,314	8,936
	受取手形			
	未収金		82	80
	有価証券			
	その他流動資産	5,223	5,252	4,982
	固定資産	220,630	221,732	221,588
	基本財産	198,465	198,530	198,410
	特定資産	21,851	21,901	21,605
	その他固定資産	314	1,301	1,573
	有形固定資産		1,050	1,050
	無形固定資産	264	201	493
	その他投資等	50	50	30
	資産の部合計	234,682	233,380	235,586

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
負債の部	流動負債	1,404	1,516	2,855
	短期借入金			
	その他流動負債	1,404	1,516	2,855
	固定負債	2,951	2,997	3,077
	長期借入金			
	その他固定負債	2,951	2,997	3,077
	負債の部合計	4,355	4,513	5,932
正味財産の部	指定正味財産	198,465	198,530	198,410
	うち補助金			
	(基本財産充当額)	198,465	198,530	198,410
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	31,862	30,339	31,243
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)	21,851	21,901	21,605
	正味財産の部合計	230,327	228,869	229,653
	負債・正味財産の部合計	234,682	233,382	235,585

市財政支出等の状況

(単位:千円)

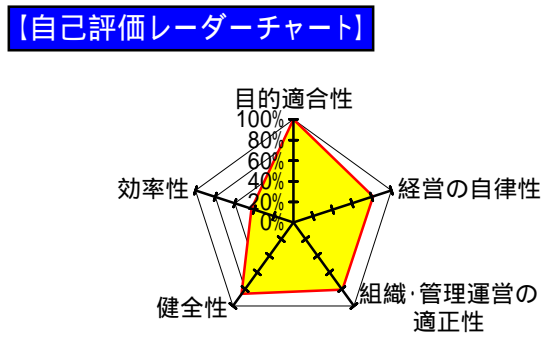
項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	目的,内容,必要性,増減理由等
補助金				
事業費補助金				
運営費補助金				
設備投資に係る補助金				
負担金		80	80	自主事業「秋艸道人写真コンテスト」共催費
交付金				
委託料	30,168	28,931	30,313	會津八一記念館管理運営に関する指定管理料
貸付金 (期中借入額)				
出資・出捐金 (追加額)				
その他				
合計	30,168	29,011	30,393	
貸付金残高				
損失補償契約に係る債務残高				
損失補償限度額				
その他財政援助の状況(税や使用料の減免,建物の無償貸与等)				

## 内部留保の状況

(単位:千円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資産の部合計	234,682	233,380	235,586
基本財産	198,400	198,400	198,400
公益事業を実施するために有している基金	18,900	18,900	18,600
法人の運営に不可欠な固定資産	314	1,302	1,573
将来の特定の支払に充てる引当資産等	2,951	3,001	3,005
負債相当額	1,404	1,516	2,855
内部留保金額	12,713	10,261	11,153

評価の結果

	評価基準数	得点(の数)	得点率	【自己評価レーダーチャート】 
目的適合性	16	16	100.0%	
経営の自律性	27	22	81.5%	
組織・管理運営の適正性	26	21	80.8%	
健全性	21	18	85.7%	
効率性	14	6	42.9%	
合計	104	83	79.8%	

自己評価における評価基準、得点状況等は、巻末の【参考】自己評価一覧を確認してください。

【団体の評価コメント】	<b>目的適合性</b>	昭和50年の開館以来、東洋美術、書道、短歌など各種の研究者、愛好者に材料を提供し、過去33年間で展示会約88回、文芸講演会161回を開催。うち20年度の講演会は11回。館長のほか学芸員も公民館や文化団体向けの出前講座に積極的に協力してきた。伝統文芸に親しむ人口が減少傾向の中、20年度も展示は写真、立体物などを導入し、「ハーと生け花」「ハーが見たラストエンペラーの至宝」などコラボレーションの企画を展開。関心を引きつけるチャンネルを多面的に工夫し、入館者の増加を目指してきた。
	<b>経営の自律性</b>	計画・実行・評価・改善は日常的作業として実行している。毎月1回は館長を囲んだ企画と改善会議。毎週1回は実行と入館数とアンケート評価意見のチェック。改善できるものは即日実施がモットー。入館者数は棒グラフにして職場内に張り出し、3カ年の比較を意識しながら、広報と連動した改善を続けている。財政面では20年度から特別展図録に広告導入、館長文芸講演会の有料化、基本財産の運用でも、新潟県債(金利1.2)から東京都債(金利1.6)への買い替えによる配当増を図り、自主財源の増強を図った。
	<b>組織・管理運営の適正性</b>	4人の職員は専門職であり、同時に多能工である。事務長はイベントやグッズの企画、営業、広報、渉外、管理等を担当。総務は経理、渉外、受付、友の会の管理。学芸員は年4回の展示、解説、年6回程度の講演会資料づくりと周辺作業、販売などを担っている。財務は委託している税理事務所が毎月の収入・支出状況をチェックし、それを受けて、借用作品の増減、ポスター・チラシの制作量の加減、出張回数の加減などを調整している。
	<b>健全性</b>	借入金はない。毎年、新潟日報社から180万円、BSN新潟放送から50万円の寄付を受けている。現金預金はペイオフ対策をほぼ実施。また基本財産の運用では20年度、新潟県債(金利1.2)から東京都債(金利1.6)に買い替え、毎年の金利320万円(80万円増)を確保。館長講座も有料化で60万円余増収を図った。これらの財源で普及活動を活発にする一方、これらの財源として、イベントは協賛社を増やし(2社10万円)、特別展では20年度から図録に広告掲載を導入し、91万円の独自財源を確保した。協力企業5社から年間120人分の商品と宅急便費用の提供をいただき、入館者アンケートの回収率向上を図っている。
	<b>効率性</b>	広報宣伝は新潟日報の記事が年間20回余、広告約100回(無料、2700万円に相当)の協力がある。BSNも主催者の場合はコマースシャルの提供がある。友の会「秋艸会」の会員は約1000人で、講演会や販売の諸事業を支援。姉妹提携している早稲田大学會津八一記念博物館と共同企画、作品・資料の貸借、情報交換は緊密。奈良の寺院群との交流は長年の蓄積があり、企画面での協力をいただいている。寄付企業、協力企業、秋艸会、奈良の寺院群など、新潟市行政のほかにこうした民間ネットワークを大きな経営資源としてしている。小さな記念館が全国的な規模のイベントや展示、広報が出来るのは以上のような背景を活用した企画力によるものである。
	<b>総括的な所見</b>	新潟しか見られない独特の文化施設は北方文化博物館と會津八一記念館であろう。当館の入館者のうち25%程度が県外在住者であり、文化的観光拠点としての役割を果たしているのではないだろうか。だが、會津八一だけをアピールするだけにとどまらず、新潟県が輩出した近世の文人たちと連動した企画展や講演などの活動も展開し、市民など来館者が新潟、さらには越後全体の文化風土を理解してもらえるような内容にすることで、會津八一へのアプローチするチャンネルを幅広く用意したい。この一環として、館長が21年4月から新潟日報文化面で「いがた 文化の記憶」を連載中である。

【所管課による評価】	<b>現状に対する評価</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・會津八一の普及活動については、新規自主事業や出前講座を実施し、積極的に取り組んでいる点は評価しているが、入館者増加にどうつなげていくかが今後の課題と言える。</li> <li>・自主財源の確保についても、有料の館長講座や図録広告など、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>
	<b>課題及び改善すべき事項</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者の増加、自主財源の確保について、継続して取り組んでいく必要がある。</li> <li>・来年度には公益法人認定申請を控えているため、そのための対応が重要課題である。</li> <li>・事務嘱託員の退職を控えていることから、職員構成の見直しについても、検討する必要がある。</li> </ul>
	<b>今後の指導方針</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、財団の自主性や自立性を尊重しながら、経費の縮減と事務の適正化を行えるよう指導や助言を行う。</li> <li>・公益法人移行に向けて、適正な職員構成について検討する。また、市としても、情報収集に努め、適正な指導協力をしていく。</li> </ul>

【今後の取り組み】	會津八一の再認識・再普及のため、展覧会やイベントの充実を図る。
	引き続き、入館者の増加・自主財源拡充につとめる。
	22年度に予定している公益認定申請のため、職員構成の見直しや定款の整備等の対応を進める。
	施設の適正な維持管理を行っていく。

【総合評価】	概ね良好	✓	改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
	<b>総括的な所見</b>				
	<p>限られた予算の範囲内で、来場者を増やすため趣向を凝らした様々な取り組みを行っていることは評価できる。</p> <p>また、自主財源の確保に積極的に取り組んでおり改善している。</p> <p>事務嘱託員の退職を控えているため、後任のプロパー職員を採用する計画だったが人件費の財源が確保できず実現していない。</p> <p>公益法人移行認定申請については、評議委員の選定委員会の立ち上げ、今年度決算からの新々会計基準導入等、作業が進行している。</p>				
	<b>今後の取り組みに対する評価、改善指示事項</b>				
	<p>大幅な来場者の増加、自主財源の増加は難しい状況であるが、新潟市が誇る文化の維持・発展の役割を担っているため、老朽化し手狭な施設の改修計画の策定、類似施設との連携等を団体と市で協議されたい。</p> <p>職員の高齢化に対応するため、プロパー職員を採用について、引き続き、団体と市と協議する必要がある。</p>				

・総合評価を受けての団体としての決意

平成21年11月	理事長	高橋 道映
<p>当館の基本テーマは會津八一の学芸的業績の普及であり、同時にその拠点である当館の展示・研究の充実および市民をはじめ県内外からの来館者数の増大である。そのための課題として 施設の老朽化・狭隘さを打開するために、市と協議をしていきたい。写真コンテスト入賞作品の巡回展を奈良と胎内市で開催してきたが、さらに開催地を増加するように働きかけたい。館長の文芸講演会、学芸員の出前講座を一層拡大したい＝公民館はじめ、学校の教師たちへの働きかけを強めたい。自主財源の強化と安定化には図録広告の掲載企業増加を一層図りたい。類似施設との連携では、すでに県内文人顕彰館(例:吉田東伍,諸橋轍次,相馬御風,宮柊二,土田麦僊,新潟市中央図書館,県立図書館)などと協力し、県外では早稲田大学會津八一記念博物館と姉妹協定を結んでいる。今後も連携強化のより一層の充実を図りたい。</p>		